

報告

第67回粘土科学討論会（北九州大会）

中戸晃之*・毛利恵美子*・桑原義博**・上原誠一郎***

*九州工業大学大学院工学研究院
〒804-8550 北九州市戸畑区仙水町1-1
**九州大学大学院比較社会文化研究院
〒819-0395 福岡市西区元岡744番地
***九州大学総合研究博物館
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

第67回粘土科学討論会は、2024（令和6）年9月4日～6日の3日間、北九州市の九州工業大学戸畑キャンパスで開催されました（写真1）。いわゆるコロナ禍の期間、オンラインやハイブリッドで開催されてきた討論会ですが、ハイブリッドで行われた昨年の仙台大会でほとんどの方が対面で参加された実績を踏まえ、今年はすべて対面で開催しました。

会場の九州工業大学は、1907年に私立明治専門学校として創立され、全国で唯一、私立から国立へ転換された歴史をもつ大学です。キャンパスには松の木が随所にある（九州北部の海沿いの原風景で、かつての九州大学箱崎キャンパスにも数多く見られました）、近代遺産に指定された建造物や機械類も点在しています。北九州と聞くと工業都市のイメージが強いと思いますが、実際には海も山も農村もあって、風光と食材に恵まれた町であることに驚かれた方も多いのではないのでしょうか。門司、小倉、戸畑、八幡、若松の5市合併で北九州市ができてから60年たちますが、未だに旧5市それぞれの個性を発見できる町でもあります。

討論会の開催にあたっては、会場である九州工業大学の中戸、毛利が事務局を務め、見学会の担当として九州大学の桑原、上原が加わった4名体制の実行委員会を組織し、準備を重ねてきました。戸畑キャンパスの総合教育棟に受付（兼休憩室）1室、講演会場2室、ポスター会場2室を用意し、当日に臨みました。前週に台風で全

国的に交通が混乱し気を採みましたが、会期までには回復し、8月の猛暑もいくぶんか和らいだ晴天の中で、討論会を迎えることができました。

討論会では、会長講演、「鉱物の風化」をテーマとしたシンポジウム講演5件、口頭発表42件（うち提案型セッションでの発表8件）、ポスター発表32件、合計80件の発表が行われました。参加登録者数は合計124名で、一般会員は正会員（共催・協賛学会員含む）81名、学生会員（共催・協賛学会員含む）31名、非会員一般が11名、非会員学生が1名でした。

討論会初日の9月4日は、9時30分からA会場およびB会場（写真2）での一般講演で幕を開け、開始早々から活発な議論が展開されました。

11時30分からは川俣会長を議長として総会が行われました。この1年間に逝去された会員へ黙祷したのち、予定された議事を行い、2024年6月の選挙で選出された新理事、新会長、新監事候補者を承認し、川俣会長の退任挨拶と佐藤新会長の所信表明をもって終了しました。総会終了後は各賞の授賞式が行われ、壇上で川俣前会長から各受賞者に賞状が手渡されました。総会の議事内容と各賞の受賞者については、本号の別記事をご覧ください。

13時30分からは、任期を終えたばかりの川俣前会長による会長講演「粘土鉱物を観る」が行われました。光



写真1 九州工業大学戸畑キャンパス

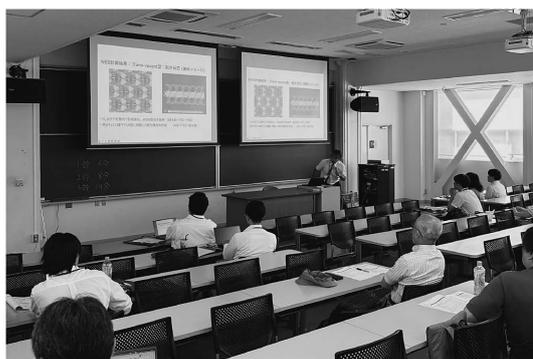


写真2 B会場

顕微鏡技術を磨き上げ、レーザー技術と組み合わせることで、スメクタイトの剥離ナノシートを直接観察する技法として確立させた研究のインパクトは大きく、次々に映し出される顕微鏡像の説得力に感嘆の声が挙がっていました。

会長講演に続いて14時30分から「鉱物の風化」をテーマとしたシンポジウムが開催されました。実行委員会からは、シンポジウム講演をしていただいた方々へ、ZENRIN(北九州市戸畑区に本社を置く情報地図会社の国内最大手)が手掛けるMap Design GALLERYの【街まち】トートバック/北九州を贈呈いたしました。シンポジウムの詳細については別記事をご覧ください。

懇親会は会場を移動し、小倉駅ビル内のJR九州ステーションホテル小倉にて、19時から21時まで行われました(写真3)。佐藤努新会長の挨拶、和田信一郎会員による乾杯の発声で始まった会は、72名の参加者がそれぞれに旧交を温め、活発な情報交換を行っていました。コロナ禍前のいつもの懇親会が戻ってきたようです。会の中盤では学会賞を受賞された先生方より挨拶をいただき、川俣前会長の中締め、引き続き歓談、そして散会となりました。

討論会2日目の9月5日は、9時30分から12時まで、初日と同じ2会場で一般講演が行われました。前日に引き続き活発な質疑応答が展開されました。

午後13時から15時まではポスター発表が行われまし



写真3 懇親会(会長挨拶)



写真4 ポスター発表

た(写真4)。発表件数は32件で、学生会員の初めての発表だけでなく、じっくりディスカッションをしたい一般会員の発表も多く、充実した討論が行われていました。会場としては、廊下などの開放空間を使えるのですが、昨今の猛暑によりこの時期の開催では冷房の効く場所が必須であるため、教室内とせざるを得ませんでした。隣接する2室をポスター会場とすることで、移動をなるべくスムーズにするようにしましたが、多少の不便さはあったかもしれません。開催地の建物の構造にもよりますが、今後も実行委員の頭を悩ませそうです。

口頭発表とポスター発表では、それぞれ優秀講演賞を選定しました。受賞された方々のお名前と演題は本号の別記事に記載にありますのでご覧ください。

ポスター発表後は、15時から17時まで、提案型セッション「スメクタイト層間の吸着に関する実験と計算の最新展開」と「クレイナノプレートの標準化」が、それぞれA会場とB会場で、同時並行で行われました。今年は2件の提案型セッションの申し込みがあり、一般講演の申し込みも多かったため、2会場並列での実施となりました。両会場とも聞きたかった、との声も多くあり、次年度以降の課題したいと思います。

見学会は、9月6日(金)に、参加者16名(うち学生会員1名)で開催されました。中型観光バスによるJR小倉駅を発着とするツアーで、見学先は芦屋釜の里(遠賀郡芦屋町)、UBE三菱セメント(株)東谷鉱山(北九州市)、同社九州工場(京都郡苅田町)でした。

午前中は、北九州から西方の芦屋釜の里を訪問しました。芦屋釜は室町時代に作られた鉄製の茶の湯釜で、芦屋釜の里では江戸時代に途絶えた技術の復元・継承を行っています。当日は鋳物師さんより釜の製作過程を説明していただき、鋳型に使う土を見学しました。

芦屋の次は進路を東に反転させ、北九州市の平尾台で昼食を取ったのち、UBE三菱セメントの東谷鉱山へ向かいました。カルスト台地として観光名所となっている平尾台に隣接した場所です(同じく観光名所の秋吉台の近隣に伊佐鉱山があるのと似ています)。マイクロバスで切羽を一望する展望台まで登り、鉱山や採掘の概要をご説明いただきました。とはいえ、炭酸カルシウムを見慣れている(?)参加者は、鉱山にとっては不要な、石灰石以外の鉱物に興味は……。

東谷鉱山の後は、セメントを製造する同社の九州工場へ移動です。鉱山から工場へ、石灰石が12.3kmのベルトコンベアで運ばれるのに対し、人間は倍の距離を高速道路で移動しました。ここでは、工場内をマイクロバスで巡りながら、大規模なキルンの熱を文字通り体で感じ、セメント産業のスケールを実感しました(写真5)。

その後は、予定より少し遅くなりましたが17時30分ごろにJR小倉駅に到着しました。天候に恵まれ、普段なかなか見ることができない鉱山と工場を存分に拝見でき、満足度の高い見学会となりました。



写真5 見学会 (UBE三菱セメント(株)九州工場)

11月のリニューアルオープンの準備でお忙しい中見学会にご対応いただきました、芦屋釜の里館長の新郷英弘様と鋳物師の樋口陽介様ほかスタッフの方々に深く感

謝いたします。また、鉱山・工場見学をご許可いただきご対応いただきました、UBE三菱セメント株式会社東谷鉱山の井樋安志様と同社九州工場の宮口和也様ならびにスタッフの方々にも厚くお礼申し上げます。

以上のとおり、第67回粘土科学討論会（北九州大会）は、会期を通じて天候にも恵まれ、心配されたJRのダイヤ乱れもなく、すべての日程を盛会裡に終えることができました。これもひとえにご参加いただいた方々、広告掲載および協賛でご協力いただいた企業の皆様、開催にあたりご協力いただいた関係者の方々と、実務をこなしてくれた10名の学生アルバイトのおかげです。すべての方々にこの場をお借りしてお礼申し上げます。加えて、北九州市、(公財)北九州市観光コンベンション協会より、北九州市MICE開催助成金の援助を受けることができました。感謝申し上げます。

次回は東京都での開催です。みなさまとの再会を心待ちにしております。